

かやまの子

笠松町道徳教育連絡会議

思いやりの心を育む卒業式



下羽栗小学校では、縦割りの集団(色別集団と呼んでいます)を組織しています。全校を十人程のグループに分け、上級生のリーダーのもとに毎週行われる「仲良し活動」や児童会の「チャレンジ2001」や「ミニ運動会」の活動をします。一緒に活動をするので、グループのメンバーは大変仲良しになります。「六年生を送る会」ではそれ

その学年が、六年生との思い出や感謝の気持ちを歌や呼びかけで表します。下級生は、六年生の一人ひとりの名前を呼び、「泣いていたところを助けてくれた さん」と印象深かったことを発表します。色別集団で撮った写真とお別れの言葉を書いた色紙を贈ります。六年生からはお返しに心の込もった手づくりの作品を一人ひとりに手渡

します。涙ぐむ子どももいて、六年生との活動がいかに楽しかったか見てとれるようです。卒業式に向かうまでの一連の活動で、在校生は卒業を祝う気持ちを高め、卒業生は自分たちの取り組んできたことを振り返り、価値付けることができました。卒業式は、節目をつくる儀式です。儀式は、厳肅な雰囲気の中で行われ



るものであることを、子どもたちに教えたいためです。また、お祝いの言葉を自分に向けて話されている気持ちで聞き、姿勢を崩すことなく最後まで卒業式に参加することは、子どもたちが生きていく上で必要なことであると考えています。

しかし、厳肅な雰囲気の中にも本校では、子どもを主役にした在校生と六年生が交わし合う、「お別れの言葉」を大切にしています。六年間培ってきた表現力を思い切り発揮する場です。また、気持ちを込めた六年生の歌声は、在校生の憧れとなっています。

卒業という節目は、異年齢の子ども同士の取り組みを価値付ける大切な場と考えます。お互いに支え合うことの素晴らしさがいっぱいあふれた卒業式の感動は、生涯にわたっての生きる力の支えになると確信します。

下羽栗小学校校長 関谷全昭

教育委員会だより

- 正しい認識への第一歩を -

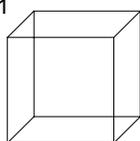
私たちは、なにげなく「みる」という言葉を使っていますが、「みる」という言葉を調べてみますと、

- ・「見」は、目で見ると。
- ・「視」は、気をつけて見る。
- ・「看」は、見つめる、見守る。
- ・「観」は、見ようと意識して見る。

等々のような漢字の意味があります。

ところで、目に見えるものが、思い込みにより一つのイメージでしか認識できない場合があります。

たとえば「ネッカーの立方体」といわれる次の図1を見て 図1

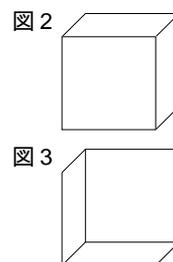


立方体を認識する場合、その人がもつ立方体のイメージによって、次の図2・図3のどちらかの立方体が現れます。

しかし、一つのイメージにとらわれてしまうと、もう一つの立方体が現れません。

そこで、見ようと意識して見ると、もう一つの立方体が現れてきます。物事に、課題意識をもって「みる」ことは、正しい認識への第一歩となるのです。

21世紀は「人権」の時代だと言われます。差別や偏見をなくし、人権感覚を磨くためにも、物事を正しくみる目を育みましょう。



教育電話相談

～悩んだら気軽に電話してください～

羽島郡四町教育委員会 245・1133